

プロジェクトに取り組む  
地域の発展のイメージ

# 1. 地域資源を活用した6次産業化

## 6次産業化を実現する地域ネットワークの整備

農林漁業者

研究機関

多様なコーディネーター

関連企業

- コーディネーター・専門家等の人材の有効活用  
(内閣府、総務省、文科省、農水省、経産省、国交省等)
- 実践的職業能力を有する人材の育成(内閣府、農水省)

- ・地域資源の発掘・活用
- ・基礎研究の推進、新技術の開発・実証



農山漁村の資源の活用



他産業分野とも連携した研究促進

- 地域イノベーションの創出の支援(文科省、農水省、経産省等)
- 研究開発の推進、研究成果の共有(文科省、農水省、経産省)

- ・食品産業等関連企業との連携
- ・加工・販売施設や農業用機械の整備



食品加工の実施



直売所の整備

- 農商工連携、半島振興や滞在型観光の振興  
(農水省、経産省、国交省)

### 新商品の開発・生産



- ・加工による高付加価値化
- ・農家レストランでの提供

### 販路の拡大



- ・直売所での販売
- ・海外での商談会

### 新産業の創出



- ・エネルギー利用
- ・新素材・健康産業への応用

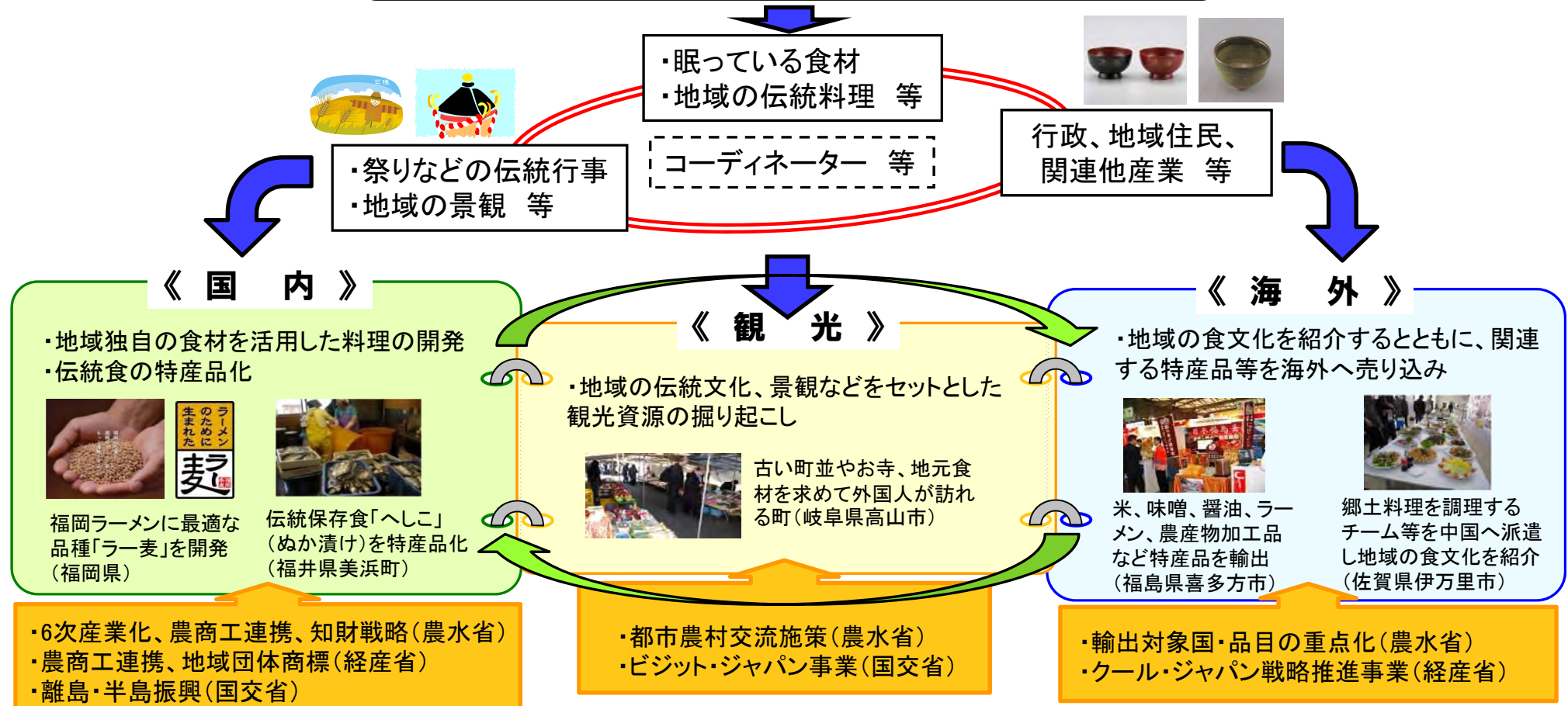
### 【実現しようとする姿】

- 農林漁業者が主体的に関係企業、研究機関等と連携し、新商品を開発・生産・販売
- 農山漁村の資源を活用し、素材、健康産業、エネルギー等、多様な分野の新産業を創出
- ネットワークの下で地域の競争力を強化し、地域ビジネスを展開

6兆円規模の  
新産業の創出

## 2. 「食文化」を軸とする観光・産業・文化政策の展開

### 地域の食文化の概念の確立、浸透



### 【実現しようとする姿】

- 国産食材を出来る限り使用し、日本国内でしか育成・推進できない地域の宝である「本物」を発掘
- 食と観光とが連携し、「本物」を味わう機会を提供することで、国内及び海外からの旅行者を誘致
- 日本食文化を軸とする農林水産物等の輸出を促進

### 我が国の経済・文化・地域の振興

経済波及効果: 約1,500億円

訪日外国人旅行者数

2020年はじめまでに、2,500万人

### 3. 我が国農林水産物・食品の輸出促進による海外展開

#### 地域の取組 (様々な地域資源を組み合わせることで効果を発揮)

##### 特色のある加工技術



- 伝統・熟練の技を用いた商品
- 新しい需要に応じた新商品開発

##### 日本特有の素材・伝統料理



(例: 寿司、天ぷら、すき焼き、精進料理、ご飯、麺類、味噌汁、酒、果物、茶)

- 日本で本物の日本食を味わう
- 地域の郷土料理

##### 伝統産業・文化



- (薩摩焼酎) (切子) (漆器)
- 伝統の食と食器、調理器具等の伝統
- 多様な風土に根ざした地域資源 (古い街並等)

##### 自然環境



- 豊かな水と風景
- 農村と食の体験を通じた日本の食文化発信

#### 世界に売り込む

##### 地域振興のイメージ

##### 地域活性化

高品質な農林水産物  
6次産業化・  
農商工連携による  
特徴のある食品

高付加  
価値化

多様な組み  
合わせ

輸出

海外

波及

評判

旅行者

実体験

農村  
体験

観光  
名所

和食  
器

伝統  
食

- ・食と多様な文化を組合せて発信 (外務省、農水省、経産省)  
(日本の良さを再発見し、世界に届け、世界を呼びよせる)
- ・食と多様な文化の体験の機会を提供 (外務省、農水省、経産省、国交省)  
(海外からの外国人旅行客を誘致)
- ・海外の食品見本市等に積極的に出展 (農水省、経産省)
- ・東アジアにおいて日本で育成された植物新品種の保護に向けた取組を実施 (外務省、農水省)
- ・アジア等への食品産業分野の情報収集・事業展開を支援 (外務省、農水省)

#### 【実現しようとする姿】

- 加工技術、伝統料理等様々な地域資源を組み合わせ、海外に発信することにより、農林水産物・食品の輸出を促進



農林水産物・食品の輸出を  
2017年までに1兆円水準に伸ばす

## 4. 「交流」を軸とした農山漁村コミュニティの再生・地域活性化

### 農山漁村の現状

- 高齢化が進み、集落の存続が危惧
- 若年層の就労の場が不足
- 農業収入だけでは生計維持に不十分
- 買い物や交通など日常生活にも支障
- 農地や里山の荒廃も進行

### 教育の場としての活用

地域資源を活用し、都市の子どもとの農林漁業体験を通じた交流を推進



地域の知名度・好感度の向上

### 観光による活性化

食や農村の美しい景観など地域資源を活用したグリーンツーリズムを推進



地域に愛着を持つ訪問・宿泊者の増加

### 都市人材の活用

地域住民が主体となって都市の人材も呼び込む



旅行者や地域の特産品の販売を増やすなど、雇用と所得を確保

○「食と地域の交流促進対策交付金」による集落への直接支援（農水省）

【都市農村交流の促進】

連携

○外部人材の参画によるコミュニティ再生に向けた施策連携（総務省、農水省）  
○地域資源を活用した都市農村交流や雇用・定住の促進、新たなビジネス創出等の各府省の地域活性化施策（総務省、文科省、厚労省、農水省、国交省、環境省）

【生活支援】

### 【実現しようとする姿】

- 農林漁業者の所得の向上
- 都市と農村の交流の活発化と、交流を通じた定住の促進
- 若年層の就労の場と収入源の確保
- 女性や高齢者の活躍・生きがいの場づくり
- 買い物や交通など基礎的な生活条件の確保

地域発ビジネスにより新たな経済活動を創出

→ 約450億円規模（2016年）

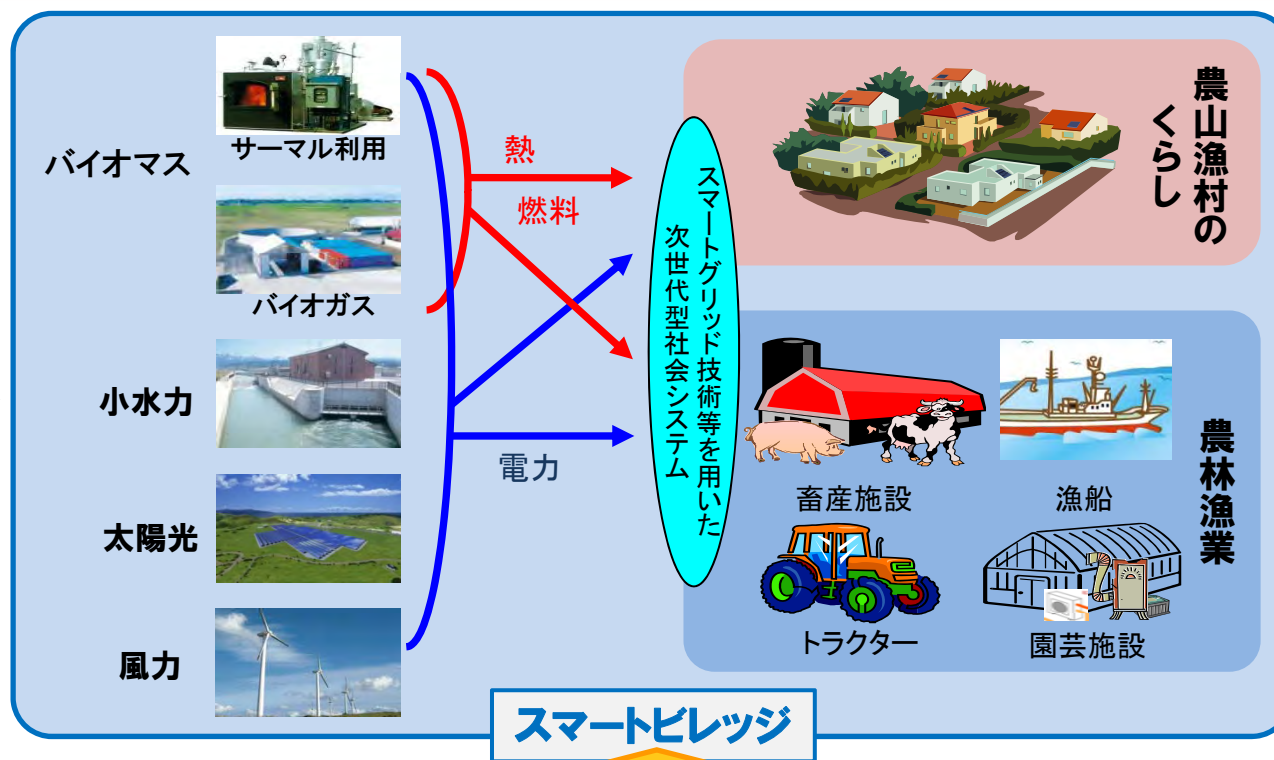
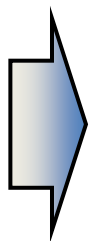
新たな交流需要を創出

→ 約1,050万人規模

## 5. 再生可能エネルギーの導入拡大

### 農山漁村の現状

- 有用な資源の放置
- 燃油価格に左右されやすい農林漁業経営
- 農山漁村地域における雇用・所得機会の減退
- 農山漁村生活における利便性、安全性への不安

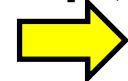


- ・技術的課題の検討・共有、政策連携の実施(総務省、農水省、経産省)
- ・バイオマス電力・熱等の生産・利用に関する取組(電力の固定価格買取制度の導入、施設整備等)の推進(農水省、経産省)

### 【実現しようとする姿】

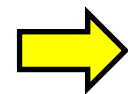
- バイオマスを始めとする多様な地域資源を活用してエネルギー(電力、熱、燃料)を高度に生産・利用し、安定的な食料生産、快適で安心な作業・生活環境を実現する農山漁村(スマートビレッジ)を育成。また、電力やバイオ燃料を都市部へ供給
- 関係する技術・システムを知的財産権の保護の下で積極的に東アジアに移転するなど、新たな輸出分を開拓

### 一次エネルギー供給に占める再生可能エネルギーの割合



2020年までに10%に引き上げ

### 温室効果ガス削減効果の発現



マテリアル利用と合わせ、炭素量換算で約2,600万トンのバイオマスを活用

## 6. 農林水産分野の有する環境保全機能を支える仕組みの構築



### 【実現しようとする姿】

- 豊かな二次的自然環境を有した里地・里山・里海の実現
- 都市住民等が多く訪れ、都市と互いに支え合う、開かれた農山漁村の実現
- グリーンツーリズムや環境便益への経済的支援による所得の向上

環境保全機能を支える、市民・企業等からの支援

➡ 4,000件程度

## 7. 医療、介護、福祉と食、農の連携

### 経験的に言われていること



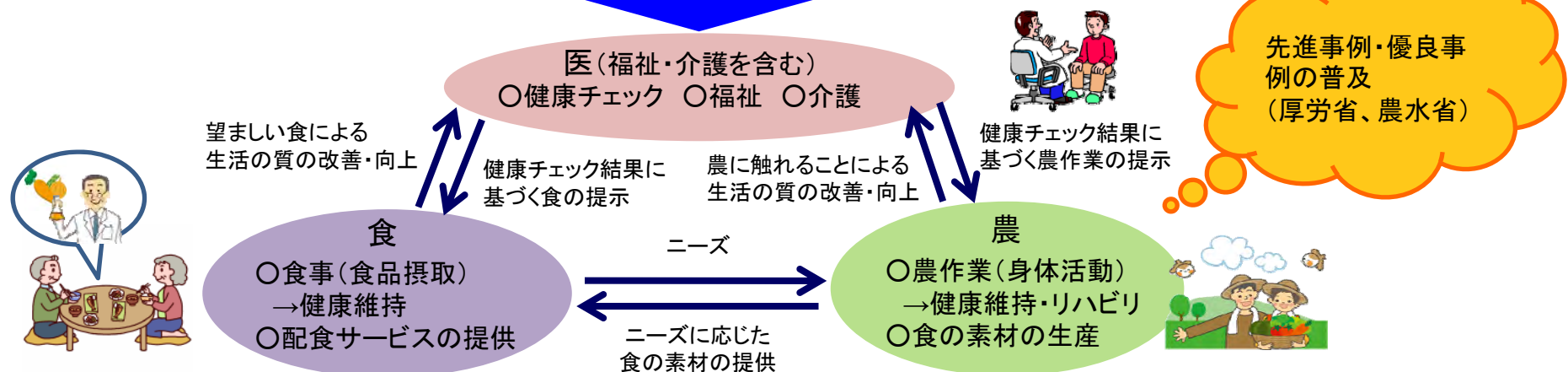
農林水産業・農山  
漁村の癒し効果



農林水産物等の持つ  
健康への効果

### 経験則から、科学的立証へ（エビデンスの蓄積）

- ・機能性に関する研究の情報提供（厚労省、農水省）
- ・生産現場に対する生薬の品質保持等に資する研究成果の提供、品質安定化・作業省力化に必要な栽培技術の指導（厚労省、農水省）



#### 【事例1（熊本県益城町）】

- ・園芸福祉士・作業療法士などの専門家を交えた、リハビリやセラピー作業を行い、福祉施設利用者の健康増進を図る。
- ・農業者との協力によるブルーベリーの病院食利用に向けた商品を開発中。



#### 【事例2（青森県青森市）】

- ・地域づくりに取り組むNPO法人が食堂と農園を運営し、常駐の医師や栄養士の監修により、栄養バランスの取れた食事提供のほか、ヘルスツーリズム等健康増進のための事業を展開。食堂と農園で計800万円の売上げ。



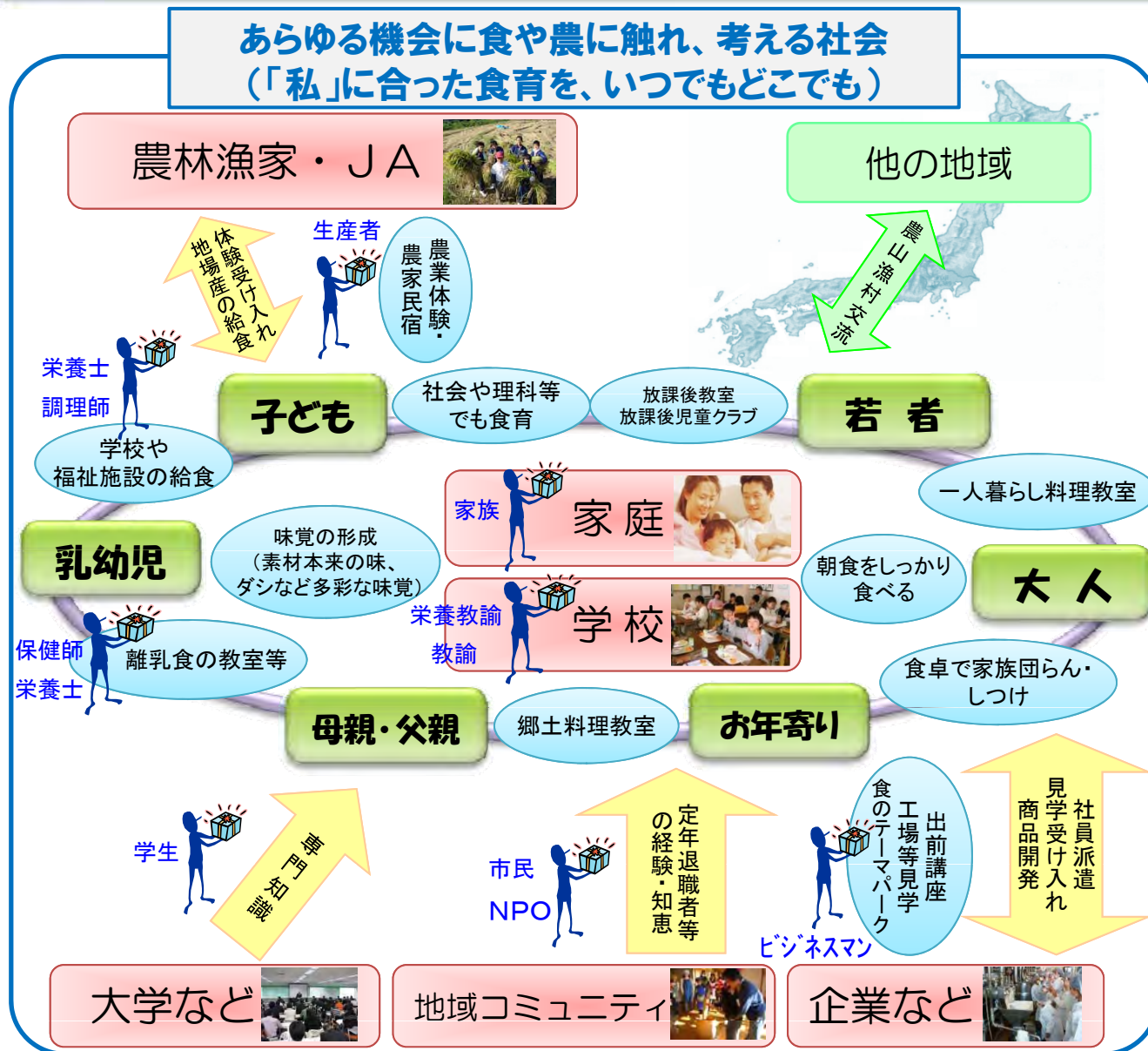
### 【実現しようとする姿】

- 「食」と「農」を基盤とした健康・長寿社会の構築



全国500地区でモデル的な取り組み

## 8. 全ての世代、様々な立場の人々が参加する「生涯食育社会」



【実現しようとする姿】

○地域の全ての人々が、「学ぶ人」  
「教える人」「協力する人」  
として食育に取り組む

- 食育を通じて、
  - ・食べ物を選択する力や食に関する知識を身に付ける
  - ・我が国や自分が住む地域の農林水産業の価値や資源としての可能性、歴史や文化を知る
  - ・環境問題について知る
  - ・人とのつながりを通じて心身が充実する

など、生きる上での知識・力が身につく

全ての人々が健康で豊かな  
生活を実現

**一人ひとりが食の将来ビジョン  
を実現するプレーヤーになり、  
元気な地域を創る原動力となる**

次期食育推進基本計画での生涯食育の推進や、地域一体となった食育の取組の推進  
(内閣府、総務省、法務省、文科省、厚労省、農水省等)

## 9.「食」に関する将来ビジョンの実現に向けた国民運動の展開

### 食ビジョン実現国民運動

「食」とその礎となる「農」、そして「地域」の可能性を最大限引き出すためには、政府のみならず、食や地域とともに毎日生きている私たち日本人一人ひとりのアクションが不可欠。そして、食や農は各府省が展開する各種の国民運動とも深くかかわりを持つ要素。

男女共同参画  
【内閣府】



早寝早起き朝ごはん  
【文科省】



健康日本21  
【厚労省】



クマノミの国  
【厚労省】



フード・アクション・ニッポン  
【農水省】



めざましごはん  
【農水省】

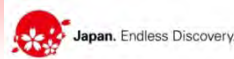


農林水産物・食品の  
輸出促進【農水省】

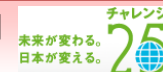


農山漁村の郷土料理百選  
【農水省】

ビジット・ジャパン事業  
【外務省、国交省】



チャレンジ 25キャンペーン「朝チャレ！」  
【環境省】



など

○「朝」「健康」「食文化」「子ども」といった  
視点から、様々な国民運動を連携して展開

○政府の職員一人ひとりが率先して運動に参加

○地域ぐるみでの地産地消などを推進

相乗効果を発揮！

「組織」とともに国民一人ひとりが行動！  
(まずは隗より始めよ！)

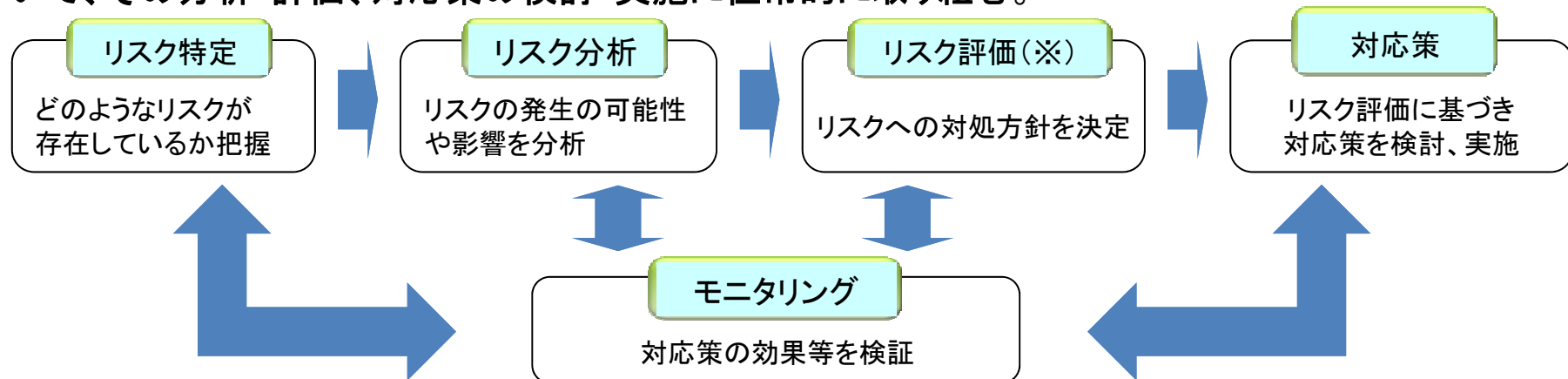
国民一人ひとりが「農」を支える！

国民一人ひとりの力で「食」に関する将来ビジョンを実現！

## 10. 総合的な食料安全保障の確立

### 食料の安定供給上の様々なリスクに対処するための恒常的な取組

- 今日、グローバル化の進展、食品の生産流通過程の複雑化等により、農作物の作付けから食料が消費者の口が届くまでのフードチェーンの各段階において、安定的な食料供給の確保を脅かす様々な不安要因が存在。
- 国家の責務である国民への食料の安定供給を確保するため、各府省の連携の下、国内の生産面のみならず流通・加工・消費面、国際面を含め食料の安定供給に影響を与える可能性のある様々な不安要因(リスク)について、その分析・評価、対応策の検討・実施に恒常的に取り組む。



※リスク評価・・・リスクを許容し保有する、リスクを許容できない場合にリスクを低減する(発生の可能性や影響を少なくする)などの対応や、それらの対応の優先順位等の方針を決定。

国民への食料の安定供給を確保